

# 「アクティブ・ラーニング 2017教員研修会」を実施！！

平成29年6月7日（水）

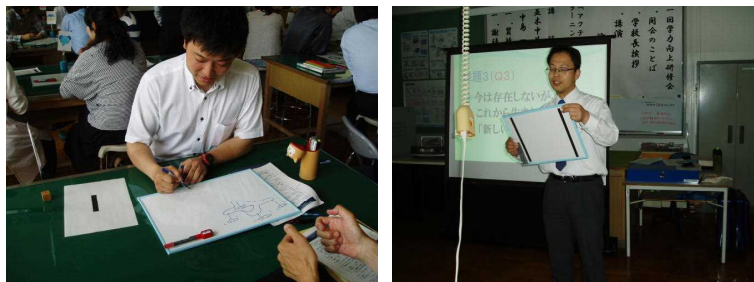
茨城県立鬼怒商業高等学校 教頭 宇都木 直之

今教育現場では、従来の伝統的な「一斉授業」からの脱却、「**主体的・対話的で深い学び**」への転換が叫ばれています。



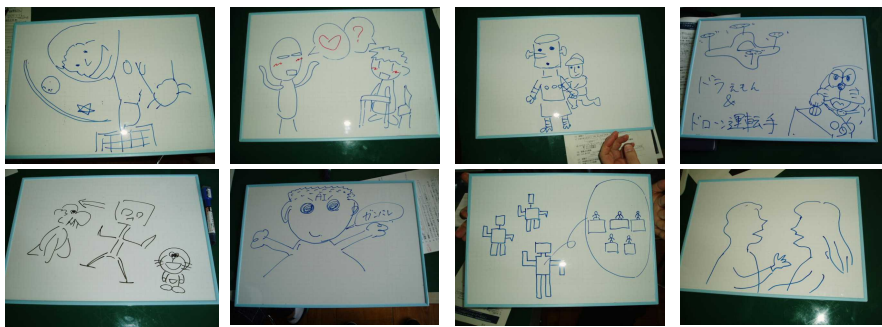
パワーポイントによる中島先生の説明で、まずアクティブラーニングの概要を理解する

今回鬼怒商では、この分野の大家である、茨城県立並木中等教育学校の中島博司校長先生を講師としてお招きして、「**アクティブ・ラーニング**」の視点からの授業改善による**学力向上**を目指した教員研修会を開きました。



グループで考えたことを代表者がホワイトボードに絵に表現してみんなの前で発表します

中島先生は、「これからのグローバル社会を生き抜くには、きちんと自分の意見を言えて、リーダーシップをとれる若者を育てなければならない」という思いからアクティブ・ラーニングの必要性を感じたとおっしゃっていました。



今後数十年後に新しく生まれるであろう職業について考え、絵に表現した鬼怒商の先生たちの作品です

中島先生は、アクティブラーニングには4つの課題があると指摘されていました。



お互いに教え合う「TO学習」で学んだことを忘れません | 時間を過ぎたら手を上げます。それを見て皆が自然に討論を止めます

- ①形だけになっていないか
- ②「学び続ける若者」を養成するという目的に向かっているか
- ③「アクティブラーニング」か「一斉授業」かの二項対立になっていないか
- ④ペアワークやグループワークだけで学力は向上するのか  
成果を上げているアクティブラーニングの授業では必ず、根底に先生と生徒、生徒同士の**リスペクト（敬意・尊敬の念）**がある、との先生の言葉が一番印象に残りました。これを道標に明日からの授業改善に臨みたいと思いました。



最後の仕上げは学んだことを80字以内で書く「R80」